

# 第6回 武蔵野市第五期基本構想・長期計画策定委員会 議事要録

---

■日 時 平成22年1月7日（金）午後7時02分～午後9時38分

■場 所 市役所811会議室

■出 席 山本泰委員長、見城武秀副委員長、  
小竹佐知子委員、近藤康子委員、作部径子委員、松本すみ子委員、  
会田恒司委員、井上良一委員、  
（前川智之委員、欠席）  
事務局（企画政策室長、企画調整課長他）

■傍聴者 5名

---

## 1. 開 会

## 2. 議 事

### （1）討議要綱案について

・資料「討議要綱案 2011/01/07版 赤入れ版」をもとに議論

委 員：「課題」の1～4が、課題A～Dに変わった理由は。

事務局：章立てがI～IVであり、すべてが数字であるので、わかりやすくA、B、C、Dにした。

委 員：「課題B」で「住み続けられる」を「すみ続けられる」にした理由は。

事務局：誤植である。

委員長：8ページ右段最終行「これらの問題を『協働』という言葉で思考停止していないか」は、相当  
突っ込んだ表現だ。

事務局：事務局のメモが残ってしまった。削除をお願いしたい。

委員長：討議要綱とは、議論をしながら理解を深めるために問題提起のトーンでつくっている。市民に  
も評価をいただけたらと思う。

・「赤入れ版」17ページ「3 都市基盤」を、欠席の前川委員にかわり、ワーキングメンバーが説明

（1）は、まちづくり条例、イコール市民のビジョンと誤読しないよう文章を変更した。

（2）は、「リニューアル」と「再整備」の重複を訂正した。

(3) は、文言の変更はないが、「3 市民生活・緑・環境」分野の「(2)4 環境負荷の少ない都市の形成」と、「環境負荷」の意味が重複している。緑・環境分野と統一するか、都市基盤分野の両方に存在させるか議論の必要がある。

(4) は、「特に、」以下が吉祥寺周辺地区だけ特化して見えるため削除し、建物の老朽化以外の課題を追記した。また、防犯といった人の安全安心の観点の記入はなくてもいいのか。

(5) の文言の修正は特にないが、自転車と共存した発想での施策が何か打てないか。

(6) は、住宅困窮者が高齢者、障害者に限定して読まれないよう文章を修正した。

(7) は、吉祥寺地区の項目に、「また、ブルーキャップによるつきまとい勧誘防止や環境浄化活動を推進する」という文言をつけ足した。中央地区に、修正と意見はない。武蔵境地区は、「積極的に推進する」を「検討する必要がある」に変更した。

(8) は、今、世界的に水への関心が高まっていることから、武蔵野の地下水の価値の保存の方向を訴えられないか。意見をいただきたい。

「都市基盤」という言葉は、どうしてもハードだけの印象を与える。市民に身近な表現はできないものか、意見を伺いたい。

委員長：「都市基盤」という言葉を今、組みかえると、5分野構成が壊れかねない。議論を深めた結果、変わることもある。もう少し煮詰めてからでもよいのではないか。

委員：今までも「都市基盤」であり、課題Dにも「都市基盤」とある。「都市基盤」でいいと思う。

委員長：「都市基盤」以外には、「良好な環境」、「まちづくり」といった言葉になるのか。

委員：「まちづくり」は、ソフトの部分が多い。

委員長：(1) がこの分野の理念ということか。

事務局：そのとおりである。

委員長：「環境負荷」という点において、都市基盤分野と市民生活・緑・環境分野を一緒にした場合のデメリットは何か。

事務局：都市基盤分野は都市の観点である。市民生活・緑・環境分野は、(4)「環境負荷の少ない都市の形成」を「環境負荷の少ない生活や事業の推進」にすれば、抵抗はない。

委員：公園・緑地の充実も、市民生活・緑・環境分野の(3)と、都市基盤分野の(3)で重複している。

事務局：緑以外では、安全安心についても重複しているが、今までの長計でも、市民生活・緑・環境分野は生活を切り口に、都市基盤分野は都市を切り口にしてきた。

委員長：水の問題を書き込むとすると、どこになるか。

委員：中国の富裕マナーが北海道の山林を買っているという話がある。ただ、それは必ずしも水源確

保には結びつかないという経済界の指摘もある。

都営水道の一元化と、良質な水供給のための施設の維持・整備の両面で書くといい。

委員長：市民生活分野において、環境負荷が少ない生活や事業だけでなく、水の価値についても書くことは可能だ。

委員：市民分野の（３）で水問題を整理して入れるといい。

（８）の「災害時における安定供給」の「災害時における」は不要ではないか。

（４）の「安全安心のまちづくりの推進」は、「安全・安心」とするか、文言を少し変えたほうがいい。同じことが随所に書かれている印象を与える。

（６）の「住宅困窮者への住宅確保について、あり方の検討が必要である」は、日本語としてわかりにくい。

委員：課題Dの「本市内に終末処理施設を持たない下水道のように」と、（２）の「本市域内では機能が完結しない」の記述は、違う意味にとらえてしまう。

（６）は、「国の課題と考えるが」ではなく、「国の政策等を踏まえ」という文言を入れてはどうか。

また、吉祥寺地区に外環道路のことが書かれていないので、都市マスタープランの記述を参考にしつつ、触れておいたほうがいい。

委員長：駅周辺問題は、外環道路の影響が大きい。

委員：外環は、つくられることを前提とするのか。

委員：そうではない。書き方は、いろいろな意見を踏まえて市も検討し、東京都などに要望していくとする。

事務局：ワーキングでは、マスタープランの原案を公表した段階の案を持っている。これは３月末に確定する予定である。

委員長：自転車の共存については。

副委員長：共存、オーケーである。

委員：都市基盤にかかわる計画のうち、自転車総合計画でも、歩行者、自動車、自転車、公共物の共存という書き方をしている。

委員：「自動車、自転車、歩行者」を「歩行者、自転車、自動車」と、歩行者を優先した順番に変えてほしい。

事務局：そのようにする。

委員長：外環は頭出し的に入れる。

自転車の具体的な話は、３月に策定される自転車等総合計画を待つに入れる。

（６）の「安心して住み続けられるまち」の「安心」とはどういう意味か。

委員：住まうことよりも提供が中心なら、「提供」、「確保」がいいのではないかと。

事務局：題名を見直す。

委員：「住宅困窮者への住宅確保について、あり方の検討が必要である」は、もう少し掘り下げないと、わからない。

委員長：これは、公団や都営建てかえの際に住めなくなった人をどうするかという話か。

事務局：危機管理だけではなく、さまざまな意味での住宅確保である。何のあり方の検討か、もう少し具体的な記述にする。

委員長：子育て世帯も住宅困窮者の面がある。

事務局：「単身高齢者の増加、障害者の自立支援という観点から」が趣旨である。もともと1文だったものを2文にした。国の政策の話と社会的弱者の生活困窮への話を分類して記載している。現段階では少子化対策まで膨らみを持たせていない。公共が担う住宅は、どこまでが市レベルなのかという問題があるので、限定的に書いている。

委員長：市は、持続可能性という観点からできることを検討課題としたほうがいい。

事務局：単身高齢者の空き家問題なども既に研究課題としているが、今のところはまだ進んでいない。

委員：「住みやすい」とはどういう意味か。バリアフリーのようなイメージを持つが、ここでは家賃や更新への不安がなく住み続けられるという意味か。

事務局：バリアフリーと住宅確保の両方を入れている。

・「赤入れ版」17ページ「4 行・財政」を近藤委員が説明

(1) は、「財政見直し」で書かれていることをカットした。また、国・市レベルの問題を書き分けた。

(2) と (4) は、1つにまとめてもいいのではないかと。

(5) は、市がチャレンジブルであることがわかるタイトルに変えた。

(6) は、なぜセキュリティ対策が必要なのか、情報社会について触れた表現に変えた。

(7) は、「広聴」という言葉を盛り込んだ情報公開についての項目を追加した。

委員：最後の2行の「市民に届けられるよう、情報公開・情報発信を見直す」というのは、情報公開・情報発信の方法を見直すということか。

委員：施策などである。

委員：「(7) 市の情報公開・情報発信への見直し」の「へ」は不要ではないかと。

委員：不要である。

(7) の5行目「行政対個人の関係のみになっている」は、「関係に偏りがちである」にした

ほうが穏やかな表現になる。その後続く「そのため、市には、」も削除したほうが、つながりのよい文章になる。

委員長：アントレプレナーシップを育て、支援する視点も入れる必要があるのではないか。

事務局：入れることに抵抗はないが、効率化の手法にならないよう十分な配慮も必要である。

委員長：16ページ（2）の事業とも連携をとりつつという表現や、19ページ（1）に含めるのはどうか。

委員：効率化と切り離して（1）にまぜ込ませれば、わかりやすい。

・「赤入れ版」7ページ「策定にあたっての4つの主な課題」を事務局より説明

委員長：課題Bでは、支えられることが強調されている。これまでも、支えられることを基盤に、能動的にかかわるよい循環が生まれる仕組みを考える議論があった。

委員：課題Cの最後に「情報の共有化を図る」というPRE戦略が追加されている。

委員：「住み続けられるまちの構築」で、地域リハビリテーションより広い概念でとらえていくところは重要だ。対象になる人と領域と、何を広くとらえたらいいか。

委員：地域リハビリテーションは、保健、医療、福祉の世界だけではないという事実確認が必要である。課題Bの枠内文章は、うまく表現できている。

委員長：社会参加の障害要因の除去は、政策的課題として書いたほうがいい。

委員：課題A部分の最後の段落「この市民自治の原則を前提に」の「この市民自治」とは、どの市民自治か。

事務局：Ⅱ章「1.『市民自治の原則』の継承」に説明がある。確かに課題Aの最後の部分の「市民自治の原則を前提に」は不要である。文言を整理したい。

委員長：8ページの左段「これは、他市にみられるような包括的に課題を担う住民自治としての町内会ではなく、自発的な協議会による（包括的な）コミュニティづくり」の文章は不要ではないか。

事務局：ここが最も肝心な部分であり、「包括的」という言葉がポイントになっている。コミュニティ構想の中で、包括的でありながら、行政の下請にはならない形の自治組織をつくることについて、ぜひ市民からの意見をいただきたい。また、市民はどんな地域社会を望んでいるか、いま一度話し合うべきときであることを提案したい。

委員：資料「建て方別住宅戸数の推移」「建て方別住宅棟数の推移」を見ても、人口は変わっていないのに世帯数はふえている。人のつき合いが希薄になっている。

事務局：今後は特に大規模マンションのコミュニティをどう考えるかが課題である。

事務局：コミュニティと町内会の持つ機能が密接にリンクしなければ、エリアを切っただけになる。武蔵野市は、それをあえてしてこなかったところが他の自治体との違いである。

委員：課題Aの内容のうち、日赤奉仕団は行政委嘱ではない。

事務局：確認する。

委員：「地域社会福祉協議会」は、正確には「地域福祉活動推進協議会」である。また、レモンキャンプで市民はわかるのか。初出の固有名詞には配慮が必要である。

事務局：日本の社会の根深い問題を背景として、実はうまく表現ができていない部分である。

委員：官製ボランティアといわれ、報酬の有無が気になるなら、もっと厳密に書いたほうがいい。私は逆に、こだわる必要はないと思う。

委員：課題Bで対象になっているのは障害者、高齢者ではなく一般の市民である。地域リハビリテーションとは対象者に若干差があるということか。

事務局：WHOの話を踏まえ、すべてを含めた形を出しておきたい。

委員長：その意味では、女性も社会参加に障害を持っている。「地域リハビリテーション」という言葉の説明も、きちんとしておいたほうがいい。

事務局：健康・福祉分野の（3）で、「健康福祉施策の総合的推進」を丸括弧で限定的に表現した部分を課題Bに書き込んだ。

・各分野の特記事項を担当委員が説明

（健康・福祉分野）

委員：（1）の「アドボカシー」「モビリティ」は説明文を前に持ってきた。

（2）のタイトルを「新たな福祉ニーズへの対応」に変更した。

事務局：（3）は、5行目までで述べた地域リハビリテーションの理念を受けて、「この理念に基づき、施策をいっそう推進していく」と記載した。

委員：（4）の「主体」は「市民」に変更した。また、「プロダクト・エイジング」は削除した。

（5）は、生き生きと暮らせるようなニュアンスの表現に変更した。

（6）は、自殺に関する記載をマイルドな表現に変更した。

（7）、（8）は変更なし。

（9）は、「および社会参加しやすいバリアフリー」を削除した。

（10）は、入居だけでなく通所や相談などのサービスを支援するニュアンスの表現にした。また、都市基盤分野の（6）とのすみ分けは、どうしたらいいか。

「障害者」と表記を統一した。

委員長：表記は、当委員会でも決定しても、最終的には、市の統一した表記を使用することになる。

委員：（9）だけ「障害者たち」となっている。

委員：「たち」は削除する。

委員長：(3)は、「施策をいっそう推進していく」以外にもっとあったほうがいいのではないか。

事務局：検討する。

(子ども・教育分野)

副委員長：内容に特に変更はない。項目の順番を入れかえた。

(1)は、子育て支援に関する姿勢、態度のような記述を加えた。

(7)の「知性・感性を磨き」の部分で、学校教育に関する理念的なことを書いた。

(9)は、公立学校教育のあり方を前面に出した記述に変更した。

(11)は、箱的なイメージが出ないように、「教育センター」という言葉は最後に入れた。

教育分野にかかわらず、報告書「今後の公共施設配置のあり方について」が打ち出す方向性に対して当委員会がどういう態度をとるか一度話し合いが必要ではないか。

事務局：再配置の中には、後ろの計画のあるものとないものとの仕分けが必要である。

事務局：次回作業部会で説明する。

委員長：後ろに個別計画があるものは、この中に盛り込んで意見を聞いてもいいと思う。唐突に出てきて変なものは個別に議論したほうがいい。

委員：確認しておいたほうがいい。

事務局：一覧表にして説明する。

委員：「学校改築方針の策定」で「児童数・生徒数の動向を踏まえ」が消されている。改築は老朽化だけで行うものではない。「児童数・生徒数の動向も踏まえた中で計画的にやる」のほうが素直な表現になるのではないか。

事務局：ここは利用者数とコストと老朽度を公開して、市民に判断していただくのが趣旨である。確かに、利用状況に当たる部分があったほうがいい。

委員長：公教育の新しい姿をつくるに当たって、夢のある書き方をしてもらいたい。

事務局：公共施設は、保育園に限らない。膨らみのある表現をしたい。

(市民生活・緑・環境分野)

委員：(1)は、「地域コミュニティの活性化」というワーキンググループからの依頼もあったが、「策定にあたっての4つの課題」の課題Aの項目と同じにした。また、コミュニティと、コミュニティ活動を分けて書いた。

(2)は、主語を「市が」とし、多様な主体が有機的につながるよう市が支援する形に変更した。

(3)から(5)の変更はないが、(4)は誤解を招きそうな表現を削除した。

(6) は、大きな文言の変更はしていない。

(7)、(8) の「防災基盤のあり方を検討する」と「基盤」が入ると、都市基盤分野と重ならないか。また、ハードが浮き彫りにならないか。

(9) の「環境浄化活動」は、市民生活・緑・環境分野から外した。

(10) は、たとえ小さな活動でも市が啓蒙活動の主になることを「そのための支援も推進する」で表現した。

(11) は、武蔵野プレイス開館に伴う変化を追加した。

(12) は、文言の訂正である。

(13) は、市の中で日常的に国際交流をすることを盛り込んだ。

委員長：(6) の農業の保全と農地の保全は違う。

事務局：(1) の最終段落は、「市民によるコミュニティづくりの拠点としてコミュニティセンターの機能について検討する」という文言を追加した。

(8) は、どのレベルで防災設備の設置を進めていくかの投げかけにも意味があるとして、「防災基盤」はそのまま生かした。

委員長：ここでいう「防災基盤」は、ハードウェアのことか。

事務局：ハードウェアである。

事務局：都市基盤分野での「基盤」は、物をつくる防災の考え方であり、市民生活分野は、仕組みも含めている。そのあたりの考え方の整理が必要だ。

事務局：「仕組み」といいかえることができる。確認する。

委員長：「態勢」は。

委員：タイトルの繰り返しになる。

委員長：水の課題をどこに取り込むかが宿題となっている。

「地域コミュニティのあり方の検討」は、腰砕けの感がある。

委員：「策定にあたっての4つの主な課題」との整合性をとったのではないか。

委員長：「活性化」でも弱いくらいだ。担い手問題も含めて「再構築」といってもいいのではないか。再編成して機能させることに主眼を置いて書いてもらいたい。

委員：個人的には「新しいコミュニティの形成」と、新しいイメージを出したい。

副委員長：市側でいい切りたくない気持ちがあるなら「機能について検討する」の後に「必要がある」とつけ加えたらどうか。

事務局：昭和46年からのコミュニティ構想もかんがみて、余り大胆に変えていくような言葉は使えない。

委員長：「活性化」ならいいのではないか。

委員：四期の調整計画にも「活性化」が出ていた。

事務局：課題を受けて、計画の中身として活性化を図るという大枠を出してもいいと思う。

委員：「4つの主な課題」では「活性化」になっている。

### 3. その他

#### (1) スケジュール確認

(作業部会：平成23年1月18日(午後7時～))

事務局：策定委員各位とワーキング、事務局と密に連絡をとっていく。

事務局：計画案づくりでは、いただいたご意見に基づいて庁内から計画案、事業化する案をとり、具体的な施策を上げる。

委員長：具体的なことが上がってきたら、事業レベルで調整することになる。

————— 了 —————